

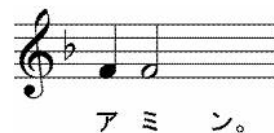
主 日 前 晩 課

第6調

注意 譜面中、五線譜上に $\parallel\circ\parallel$ とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2023年10月 釧路管轄司祭ステファン内田 作成

司祭) われら かみ つね あが ほ いま いつ よよ
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世々に、



司祭) きた われら おう かみ こうはい
來れ、我等の王・神に叩拜せん、

きた われら おう かみ こうはいふふく
來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん、

きた われら おう かみ まえ こうはいふふく
來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん、

きた かれ こうはいふふく
來れ、彼に叩拜俯伏せん、

【 第103 聖詠 (首誦聖詠：我が靈よ主を讃め揚げよ) 】

わ が た ま し い よ お、しゅを ほ め え あ げ よ。
我 靈 主 讃 揚

しゅ よ、なんぢは あが め ほ め え ら る。しゅ
主 爾 崇 讃 主

わ が か み よ、なんぢは い た っ て お お い な り。
我 神 爾 至 大

しゅ よ、なんぢは あが め ほ め え ら る。な
主 爾 崇 讃 爾

んぢは こ お え い と い げ ん と を こ お む う れ り。
光 榮 威 嚴 被 覆

しゅ よ、なんぢは あが め ほ め え ら る。や ま
主 爾 崇 讃 山

の い た だ あ き に い み づ た っ つ う み い づ た 立
嶺 水 立 水 立

つ 。 しゅ うよ 、 なん ぢのしわざあは あ き い い な
主 爾 工 業 奇 異

り 。

や ま の あ い だ あ に い み づ な が る う、 み い
山 間 水 流 水

づ なあが る 。 しゅ うよ 、 なん ぢのしわざあは あ き い
流 主 爾 工 業 奇

い な り 。

み な ち え を も っ て つ く れ り ち え
皆 智 慧 以 作 智 慧

を も っ て つ く れ り 。

こ お え い は な ん ぢ ば ん ぶ つ を つ く り し しゅ に い き
光 榮 爾 萬 物 作 主 歸

す 。

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。

何 時 世 世


 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ
 神


 よこうえいはなんぢにきす。
 光 榮 爾 歸


 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ
 神


 よこうえいはなんぢにきす。
 光 榮 爾 歸


 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ
 神


 よこうえいはなんぢにきす。
 光 榮 爾 歸

【 大聯禱 】

司祭) ^{われらあんわ しゅ いの}我等安和にして主に禱らん、


 しゅあわれめよ。
 主 憐

司祭) ^{うえ くだ あんわ われら たましい すくい ため しゅ いの}上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、


 しゅあわれめよ。
 主 憐

司祭) ^{ぜんせかい あんわ かみ せい しょきょうかい けんりつ およ しゅうじん ごういつ ため しゅ いの}全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、


 しゅあわれめよ。
 主 憐

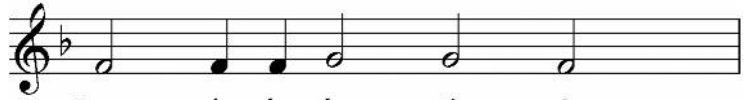
司祭) ^{こ せいどう およ しん つつしみ かみ おそ ところ もつ ここ きた もの ため しゅ いの}此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

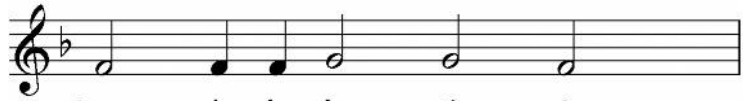
司祭) 教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリス

トスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) 我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) 此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) 氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び

かれらの救の爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが爲に主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

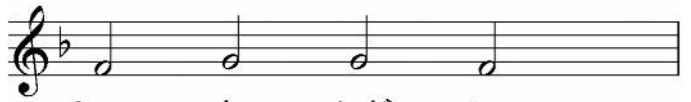


しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) ^{しせいしけつ} 至聖至潔にして ^{いた} 至 ^{さんび} りて ^{われら} 讚美たる我等の ^{こうえい} 光榮の ^{ちよさい} 女宰、 ^{しょうしんちよ} 生神女、 ^{えいていどうちよ} 永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん} 諸聖人を ^{きおく} 記憶して、 ^{われらおのれ} 我等己の ^{みおよ} 身及び ^{たがい} 互に ^{おのおの} 各の ^み 身を以て、 ^{もつ} 並に ^{ならび} 悉く ^{ことごと} の我等の

^{いのち} 生命を以て、 ^{もつ} ハリストス ^{かみ} 神に ^{いたく} 委託せん、



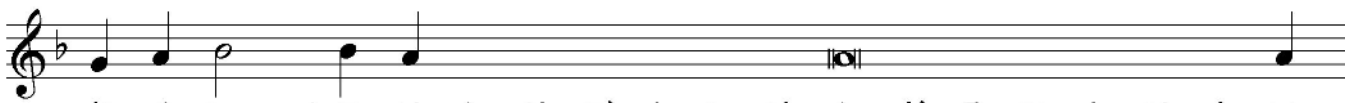
しゅ な んぢ に 。
主 爾

司祭) ^{けだし} 蓋、 ^{およ} 凡そ ^{こうえい} 光榮 ^{そんきふくはい} 尊貴 ^{なんぢちち} 伏拜は ^こ 爾 ^{せいしん} 父と子と聖神に ^き 歸す、 ^{いま} 今も ^{いつ} 何時も ^{よよ} 世々に、

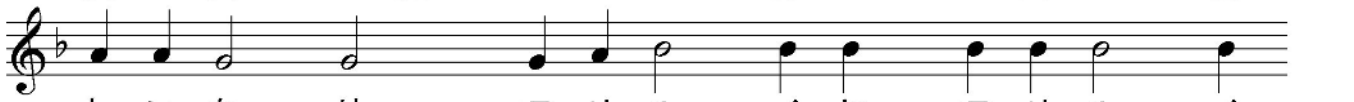


ア ミ ン。

【 第一カフィズマ 第一段 】



あくにんのはかりごとゆかざるひとはさい
悪人 謀 行 人 福



わいなり、アリルイヤ、アリルイ



ヤ、アリルイヤ。



しゅはぎじんのみちをしる、あくにんのみちはほろ
主義人 途 知 悪人 途 滅



びん、アリルイヤ、アリルイヤ、アリ



ルイヤ。



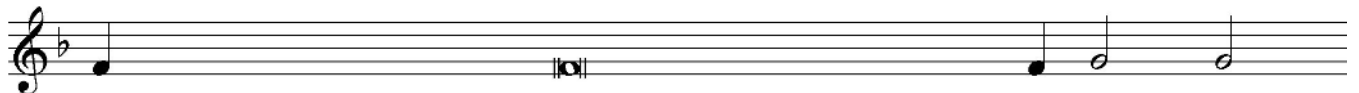
おそれしゆにつとめよ、おののきてそのまえ
畏 主 勤 戦 其 前



によろこべよ、ア ril ル イ ヤ、ア ril ル イ
喜



ヤ、ア ril ル イ ヤ。



およそかれをたのむものはさいわいなり、
凡 彼 侍 者 福



ア ril ル イ ヤ、ア ril ル イ ヤ、ア ril ル



イ ヤ。



しゆやたてよ、わがかみや、われをすくいた給
主 立 吾 神 我 救 給



まえ、ア ril ル イ ヤ、ア ril ル イ ヤ、



ア ril ル イ ヤ。



すくいしゆに よる なんぢの こうふくは なんぢの た
救 主 依 爾 降 福 爾 民



みにあり、ア ril ル イ ヤ、ア ril ル イ
在



ヤ、ア ril ル イ ヤ。

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。 ア リ ル イ ヤ 、 ア
何 時 世 世

リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 。

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ ^{しゅ いの} 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅ あ わ れ め よ 。

主 憐

司祭) かみ なんぢ おんちやう もつ われら たす すく あわれ まも 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

しゅ あ わ れ め よ 。

主 憐

司祭) しせいしけつ ^{いた} ^{さんび} ^{われら} ^{こうえい} ^{ちよさい} ^{しょうしんちよ} ^{えいていどうちよ} 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

^{しよせいじん} ^{きおく} ^{われらおのれ} ^{みおよ} ^{たがい} ^{おのおの} ^み ^{もつ} ^{ならび} ^{ことごと} ^{われら} 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

^{いのち} ^{もつ} ^{かみ} ^{いたく} 生命を以て、ハリストス神に委託せん、

しゅ な ん ぢ に 。

主 爾

司祭) ^{けだしけんべいおよ} ^{くに} ^{けんのう} ^{こうえい} ^{なんぢちち} ^こ ^{せいしん} ^き ^{いま} ^{いつ} ^{よよ} 蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、

ア ミ ン 。

【 第140聖詠 (主よ爾に籲ぶ) 第6調 】

しゅよ なんぢに よぶ すみやかに われに いたり た
主 爾 呼 速 我 格 給

ま え、しゅよ われに ききたま あ え、
主 我 聴 給

しゅよ なんぢに よぶ すみやかに われに いたり た
主 爾 呼 速 我 格 給

ま あ え、なんぢに よぶ と き わが いのりの こ
主 爾 呼 時 我 禱 聲

えを いたたま え、しゅよ われに ききた
納 給 主 我 聴 給

ま あ え、ねが わくは わが いのり は こう
願 我 禱 香

ろのか おりのごとく なんぢが かんばせの まえ
爐 香 如 爾 顔 前

にのぼ おり、わが てを あぐる はくれの
登 我 手 舉 暮

まつりのごとく いれられん。しゅよ われに
祭 如 納 主 我

ききたま あ え。
聴 給

誦經) しゅ わくち まもり お わくちびる もん ふせ たま わ こころ よこしま ことば かたぶ
主よ、我が口に 衛を置き、我が 唇の門を扞ぎ給え、我が心に 邪なる言に傾

きて、不法を行 う人と共に、罪の推 諉せしむる母れ、願わくは我は彼等の甘味を嘗め

ざらん。義人は我を罰すべし、是れ 矜恤なり、我を譴むべし、是れ極と 美しき膏、我

が首を悩ます能わざる者なり、唯我が 禱は彼等の悪事に敵す。彼等の首 長は巖石の

あいだ さん わ ことば にゆうわ き われら つち ごと き くだ わ ほね ちごく うち
間に散じ、我が言の柔和なるを聴く。我等を土の如く斫り砕き、我が骨は地獄の口に

ち お しゅ しゅ ただわ め なんぢ あお われなんぢ たの わ たましい しりぞ なか
散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を恃む、我が靈を退くる母

わ ため もう わな ふほうしゃ あみ われ まも たま ふけんしゃ おのれ あみ かか
れ。我が爲に設けられし罟、不法者の網より我を護り給え。不虔者は己の網に罹り、

ただわれ す え
唯我は過ぐるを得ん。

【 第141聖詠 】

わ こえ もつ しゅ よ わ こえ もつ しゅ いの わ いのり そのまえ そそ わ うれい
我が聲を以て主に呼び、我が聲を以て主に禱り、我が禱を其前に注ぎ、我が憂を

そのまえ あらわ わ たましい うち よわ とき なんぢ われ みち し わ ゆ みち おい
其前に顯せり。我が靈の衷に弱りし時、爾は私の途を知れり、我が行く路に於て、

かれら ひそか わ ため あみ もう われみぎ め そそ ひとり われ みと もの われ
彼等は竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我

のが ところ わ たましい かえりみ もの しゅ われなんぢ よ い なんぢ われ
に通る所なく、我が靈を顧る者なし。主よ、我爾に呼びて云えり、爾は私の

かくれが い もの ち おい われ ぶん わ よ き たま われはなはだよわ
避所なり、生ける者の地に於いて私の分なり。我が呼ぶを聴き給え、我甚弱りたれば

われ はくがい もの すく たま かれら われ つよ
なり、我を迫害する者より救い給え、彼等は我より強ければなり。

句⑩ わ たましい ひとや ひ いだ われ なんぢ な さんえい たま
我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讚榮せしめ給え。

讃詞⑩ ちごく か なんぢ じゅうじか のぼ ししゃ うち じゅう もの おのれ ひかり
地獄に勝つハリストスよ、爾は十字架に上れり、死者の中に自由なる者、己の光

いのち なが もの し くらやみ ぎ もの おのれ とも ふくかつ ため ぜんのう
より生命を流す者として、死の幽暗に坐する者を己と偕に復活せしめん爲なり。全能

きゆうせいしゅ われら あわれ たま
の救世主よ、我等を憐み給え。

句⑨ なんぢおん われ たま とき ぎじん われ めぐ
爾恩を我に賜わん時、義人は我を環らん。

讃詞⑨ いま し ほろぼ かつ い ごと ふくかつ せかい よろこび たま われらみな
今ハリストスは死を滅して、嘗て言いし如く復活し、世界に歡喜を賜えり、我等皆

よ か うた ため いのち いづみ ちか がた ひかり ぜんのう きゆうせいしゅ われら あわれ
籲びて斯く歌わん爲なり、生命の泉、近づき難き光、全能の救世主よ、我等を憐

たま
み給え。

句⑧ しゅ われふか ところ なんぢ よ しゅ わ こえ き たま
主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給え、

讃詞⑧ しゅ われら ざいにいづこ なんぢことごと ぞうぶつ お もの さ てん なんぢみづか す
主よ、我等罪人何處に爾悉くの造物に居る者を避けん、天には爾親から住む、

ちごく なんぢし ほろぼ うみ ふかみ い しゅさい かしこ なんぢ て われらなんぢ
地獄には爾死を滅せり、海の深處に入らんか、主宰よ、彼處には爾の手あり。我等爾

はし つ なんぢ ふくはい いの し ふくかつ しゅ われら あわれ たま
に趨り付き、爾に伏拜して禱る、死より復活せし主よ、我等を憐み給え。

句⑦ ねが なんぢ みみ わ いのり こえ き い
願わくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

讃詞⑦ ^{われらなんぢ}ハリストスよ、我等 ^{じゅうじか}爾の十字架を以て ^{もつ}誇と爲し、^{ほこり}爾の復活を歌いて ^な崇め讃む、^{なんぢ} ^{ふくかつ} ^{うた} ^{あが} ^ほ

^{なんぢ} ^{われら} ^{かみ} ^{われらなんぢ} ^{ほか} ^た ^{かみ} ^し
爾は我等の神にして、我等爾の外に他の神を識らざればなり。

句⑥ ^{しゅ} ^も ^{なんぢ} ^{ふほう} ^{ただ} ^{しゅ} ^{だれ} ^よ ^た ^{しか} ^{なんぢ} ^{ゆるし} ^{ひと} ^{なんぢ}
主よ、若し爾不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾
^{まえ} ^{つつし} ^{ため}
の前に敬まん爲なり。

讃詞⑥ ^{われらつね} ^{しゅ} ^{あが} ^ほ ^{かれ} ^{ふくかつ} ^{うた} ^{そのじゅうじか} ^{しの} ^し ^{もつ} ^し ^{ほろぼ}
我等常に主を崇め讃めて、彼の復活を歌う、其十字架を忍びて死を以て死を滅し
^よ
しに因る。

句⑤ ^{われしゅ} ^{のぞ} ^わ ^{たましいしゅ} ^{のぞ} ^{われかれ} ^{ことば} ^{たの}
我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

讃詞⑤ ^{しゅ} ^{こうえい} ^{なんぢ} ^{ちから} ^き ^{けだしなんぢ} ^し ^{けん} ^{たも} ^{もの} ^{むな} ^{なんぢ} ^{じゅうじ}
主よ、光榮は爾の力に歸す、蓋爾は死の權を有つ者を空しくし、爾の十字
^か ^{もつ} ^{われら} ^{あらた} ^{われら} ^{せいめい} ^{ふきゅう} ^{たま}
架を以て我等を新にして、我等に生命と不朽とを賜えり。

句④ ^わ ^{たましいしゅ} ^ま ^{ばんにん} ^{あさ} ^ま ^{ばんにん} ^{あさ} ^ま ^{はなはだ}
我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

讃詞④ ^{しゅ} ^{なんぢ} ^{ほうむり} ^{ぢごく} ^{かせ} ^{やぶ} ^し ^{ふくかつ} ^{せかい} ^{てら} ^{しゅ} ^{こうえい}
主よ、爾の葬は地獄の桎梏を壊り、死よりの復活は世界を照せり。主よ、光榮は
^{なんぢ} ^き
爾に歸す。

句③ ^{ねが} ^{しゅ} ^{たの} ^{けだしあわれみ} ^{しゅ} ^{おおい} ^{あがない} ^{かれ} ^{かれ}
願わくはイスライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼
^{そのことごと} ^{ふほう} ^{あがな}
はイスライリを其悉くの不法より贖わん。

讃詞③ ^{いた} ^{むてん} ^{どうていぢよ} ^わ ^{からだ} ^{よわみ} ^{たましい} ^{くるしみ} ^{こころ} ^{うれい} ^み ^{われ} ^{しん}
至りて無玷なる童貞女よ、我が體の劣弱、靈の苦惱、心の憂愁を見て、我に神
^{せい} ^{かえりみ} ^え ^{たま} ^{いの} ^{なんぢ} ^{ねつせつ} ^{きとう} ^{もつ} ^{われ} ^{すく} ^{たま}
聖なる眷顧を得しめ給え。祈る、爾の熱切なる祈禱を以て我を救い給え。

句② ^{ばんみん} ^{しゅ} ^ほ ^あ ^{ばんぞく} ^{かれ} ^{あが} ^ほ
萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ、

讃詞② ^{ぢよさい} ^{われしよさい} ^{もつ} ^{しゅうじん} ^こ ^{いの} ^{いさぎよ} ^{どうていぢよ} ^{そのおお} ^{きよ}
女宰よ、我諸罪を以て衆人に超えたり。祈る、潔き童貞女よ、其多きを潔め
^{なんぢ} ^{こおよ} ^{かみ} ^{しょうらい} ^{しんぱん} ^{おい} ^{われ} ^{じれん} ^{こうむ} ^え ^{たま}
て、爾の子及び神の將來の審判に於て我に慈憐を蒙るを得しめ給え。

句① ^{けだしかれ} ^{われら} ^{ほどこ} ^{あわれみ} ^{おおい} ^{しゅ} ^{しんじつ} ^{なが} ^{そん}
蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

讃詞① ^{いさぎよ} ^{もの} ^{われなんぢ} ^よ ^{もの} ^{しよざい} ^{おお} ^{きよ} ^{なんぢ} ^{きとう} ^{つるぎ} ^{もつ} ^わ
潔き者よ、我爾を呼ぶ者の諸罪の多きを潔めて、爾の祈禱の劔を以て我が
^{よく} ^{はげ} ^{うごき} ^た ^{たま} ^わ ^{しん} ^{あい} ^{もつ} ^{なんぢ} ^{たね} ^{さん} ^{うた} ^{ため}
慾の厲しき動揺を斷ち給え、我が信と愛とを以て爾の種なき産を歌わん爲なり。

【 ドグマチカ (生神女讃詞) 第6調 】



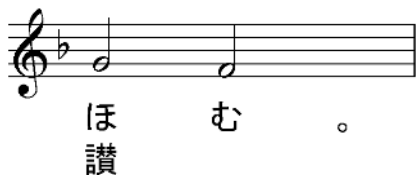
こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今
 いつもよおよおに、アミン。
 何時 世 世 におに、アミン。
 しせいなるとうていぢよよ、だれかなんぢを
 至 聖 童 貞 女 誰 爾
 さんびせぎあらん、だれかなんぢのいたりて
 讚 美 誰 爾 至
 きよきさんをうたわざらん。よのなきさき
 淨 産 歌 世 無 先
 にちちよりひかるどくせいの子はなんぢき
 父 光 獨 生 子 爾 淨
 よきものよりいいがたくみをとりにてい
 出 者 言 難 身 取 出
 で、ほんせいのかみはわれらのためにほんせい
 本性の神我等爲本性
 のひととなれえり。そのくらいひとつに
 一人爲其位一
 してあいわかれず、そのせいふたつにして
 相分其性二
 あいうしなわあず。きよくしていたり
 相失失わあず。きよくしていたり至

て さ い わ い な る も の よ 、 わ が た ま し い の
 福 者 我 靈
 あ わ れ み を こ う む ら ん こ と を か れ に い の り た 給
 憐 蒙 彼 禱 給
 ま あ え 。

司祭) ^{えいち} 睿智、^{つつし} 肅 ^た みて立て、

【 聖ソフロニイの祝文 】

せ い に し て ふ く た る じ ょ う せ い な る て ん の ち ち の
 聖 福 常 生 天 父
 せ い な る こ う え い の お だ や か な る ひ か り イ イ
 聖 光 榮 穩 光
 ス ス ハ リ ス ト ス よ 、 わ れ ら ひ の い り に い た り く 暮
 我 等 日 入 至 暮
 れ の ひ か り を み て 、 か み ち ち と こ と せ い し ん
 光 見 神 父 子 聖 神
 を う と お う 。 い の ち を た も う か み の こ 子
 歌 生 命 賜 神 子
 よ 、 な ん ぢ は い つ も け い け ん の こ え に て う た わ
 爾 何 時 敬 虔 聲 歌
 る べ し 、 ゆ え に せ か い は な ん ぢ を あ が め
 故 世 界 爾 崇



ほむ。
讃

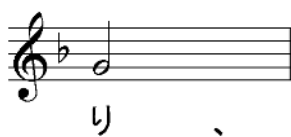
【 大プロキメン 第6調 】

司祭) ^{つつし}謹 ^きみて^{しゅうじん}聴く^{へいあん}べし、^{えいち}衆人に平安、睿智、

誦經) ^{プロキメン}提綱、^{しゅ}主は^{おう}王たり、^{かれ}彼は^{いげん}威嚴を^き衣たり、



しゅはおうたり、かれはいげんをきた
主王 彼 威嚴 衣

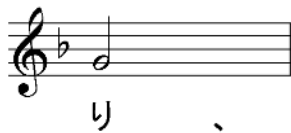


り、

誦經) ^{しゅ}主は^{のうりよく}能力を^き衣、^{またこれ}又之を^{おび}帯にせり、



しゅはおうたり、かれはいげんをきた
主王 彼 威嚴 衣

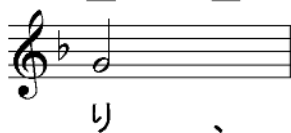


り、

誦經) ^{ゆえ}故に^{せかい}世界は^{けんご}堅固にして^{うご}動かざらん、



しゅはおうたり、かれはいげんをきた
主王 彼 威嚴 衣



り、

誦經) ^{しゅ}主よ、^{せいとく}聖徳は^{なんぢ}爾の^{いえ}家に^{ぞく}屬して^{えいえん}永遠に^{いた}至らん、



しゅはおうたり、かれはいげんをきた
主王 彼 威嚴 衣



り、

誦經) ^{しゅ おう} 主は王たり、



かれはいげんをきたり。
彼 威 嚴 衣

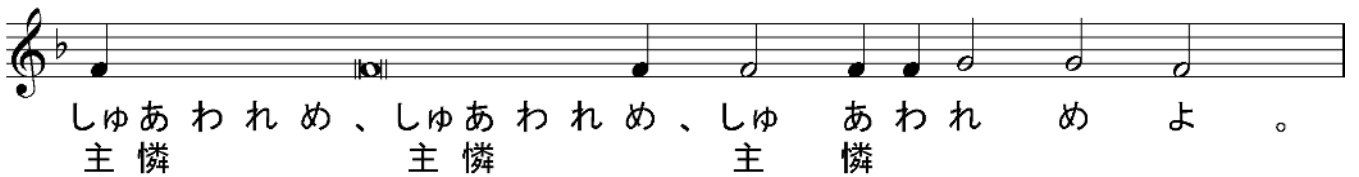
【 重聯禱 】

司祭) ^{かみ なんぢ おおい あわれみ よ われら あわれ なんぢ いの き い あわれ} 神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) ^{またわがくに てんのうおよ くに つかさど もの ため いの} 又我國の天皇及び國を司る者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) ^{またきょうかい つかさど そんき われら ぜんにつぼん ふしゅきょう およ お} 又教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、及びハリストスに於ける ^{ことごと われら けいてい ため いの} 悉くの我等の兄弟の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) ^{またつね きおく ふく こ せいどう こんりゅうしゃ およ すで ねむ ことごと ふそけいてい} 又恒に記憶せらるる福たる此の聖堂の建立者、及び既に寝りし ^{こ ところ しょほう ほうむ せいきょう もの ため いの} 悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) ^{またかみ しょぼく こ せいどう けいてい じれん せいめい へいあん そうけん きゅうしょく けんこ かんゆう} 又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦 ^{およ しょざい ゆるし たま ため いの} を賜わんが爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) またこの聖堂に物を献り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び此に立ちて

爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も

何時も世に、



ア ミ ン。

誦經) 主よ、我等を守り罪なくして此の晩を度らせ給え、主吾が先祖の神よ、爾は崇め讚

められ爾の名は世に尊み歌わる、アミン。

主よ、爾を待むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え、主よ、爾は崇め讚めらる、

爾の誠を我に訓え給え、主宰よ、爾は崇讚めらる、爾の誠を我に悟らせ給

え、聖なる者よ、爾は崇讚めらる、爾の誠にて我を照し給え。

主よ、爾の憐は世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ、讚は爾に歸し、

歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、アミン。

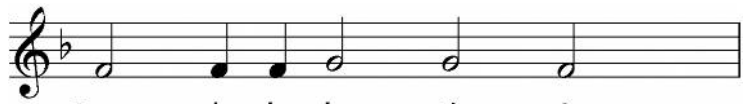
【 増聯禱 】

司祭) 我等主の前に吾が晩の禱を増し加えん、



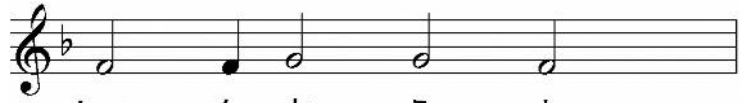
しゅあわれめよ。
主 憐

司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、



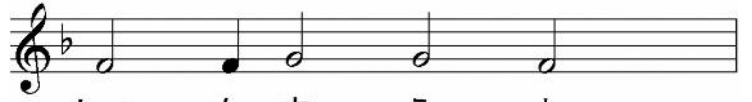
しゅ あわれ め よ 。
主 憐

司祭) ^{こ くれ じゅんぜん せいせい へいあん むざい} 此の晩の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



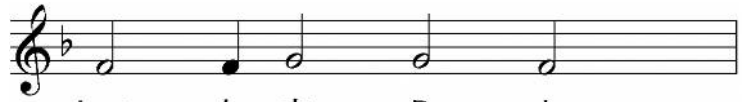
しゅ たま え よ 。
主 賜

司祭) ^{へいあん てんし ただ きょうどうし わ れいたい しゅごしや たま} 平安の天使、正しき教師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



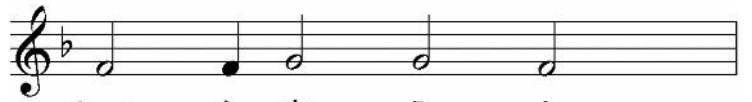
しゅ たま え よ 。
主 賜

司祭) ^{われら つみ あやまち なだ ゆる} 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



しゅ たま え よ 。
主 賜

司祭) ^{われら たましい ぜん えき こと およ せかい へいあん たま} 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、



しゅ たま え よ 。
主 賜

司祭) ^{われら いのち よじつ へいあん つうかい もつ おわ} 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



しゅ たま え よ 。
主 賜

司祭) ^{われら いのち おわり かな やまい はち へいあん} 我等の生命の終がハリストティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハ

^{リス}トスの畏る可き審判に於て宜しき對^ををなすを賜わんことを求む、

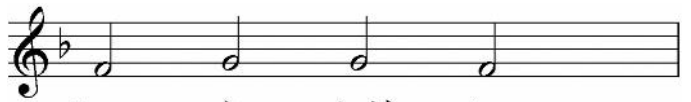


しゅ たま え よ 。
主 賜

司祭) ^{しせいしけつ いた さんび われら こうえい ちよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ} 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

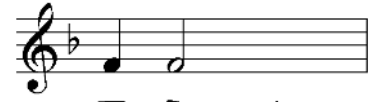
^{しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら} 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

^{いのち もつ} 生命を以て、ハリストス神に委託せん、



しゅ な ん ぢ に 。
主 爾

司祭) ^{けだしなんぢ ぜん} 蓋 爾 ^{ひと あい} は善にして人 ^{かみ} を愛する神 ^{われら こうえい} なり、我等光榮 ^{なんぢちち} を 爾 父 ^こ と子 ^{せいしん} と聖神 ^{けん} に獻 ^{いま} ず、今も
いつ よよ
何時も世に、



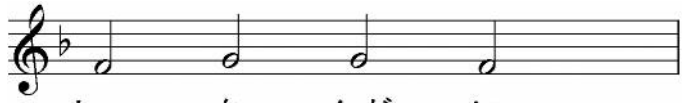
ア ミ ン。

司祭) ^{しゅうじん へいあん} 衆 人に平安



なんぢの し んにも 。
爾 神

司祭) ^{われら こうべ しゅ かが} 我等の首 ^を 主に屈めん



しゅ な ん ぢ に 。
主 爾

司祭) (黙經 ^{しゅわ かみ てん かが} 主我が神、天 ^{じんるい} を屈めて人 ^{すく} 類 ^{ため} を救 ^{くだ} うが爲 ^{もの} に降 ^{なんぢ} りし者 ^{しよぼく} よ、爾 ^{なんぢ} の諸 ^{しよぼく} 僕 ^{なんぢ} と爾 ^{なんぢ} の

^{しぎょう かえり たま} 嗣業 ^{けだしなんぢ} とを顧 ^{しよぼく} み給 ^{なんぢおそ} え、蓋 爾 ^{ひと あい} の諸 ^{ひと} 僕 ^{あい} は、爾 ^{ひと} 畏 ^{あい} るべくして人 ^{あい} を愛 ^{あい} する

^{しんぱんしゃ こうべ かが} 審判者 ^{おのれ くび ふ} に首 ^{ひと} を屈 ^{たすけ} め、己 ^ま の頸 ^{すなわちなんぢ} を伏 ^{あわれみ} し、人 ^{あわれみ} の助 ^{あわれみ} を俟 ^{あわれみ} たず、乃 ^{あわれみ} 爾 ^{あわれみ} の憐 ^{あわれみ} を

^{ま なんぢ すくい あお} 俟 ^{もと} ち、爾 ^{かれら} の救 ^{つね} を仰 ^{まも} ぐ、求 ^{かれら} む彼 ^こ 等 ^{ゆうべ} を恒 ^{つぎ} に護 ^{いた} り、彼 ^{いた} 等 ^{いた} を此 ^{いた} の夕 ^{いた} にも、次 ^{いた} て至 ^{いた} る

^{よる およそ てきおよそ} 夜 ^{あくま} にも、凡 ^{かんぼう} の敵 ^{むな} 凡 ^{しりよ} の悪 ^あ 魔 ^{いねん} の姦 ^{まも} 謀 ^{たま} と虚 ^{たま} しき思 ^{たま} 慮 ^{たま} と悪 ^{たま} しき意 ^{たま} 念 ^{たま} とより護 ^{たま} り給 ^{たま} え、)

^{ねが なんぢちち こ} 願 ^{せいしん} わくは 爾 ^{くに} 父 ^{けんべい} と子 ^{さんようさんえい} と聖 ^{いま} 神 ^{いつ} の國 ^{よよ} の權 ^{よよ} 柄 ^{よよ} は讚 ^{よよ} 揚 ^{よよ} 讚 ^{よよ} 榮 ^{よよ} せられん、今 ^{よよ} も何 ^{よよ} 時 ^{よよ} も世 ^{よよ} に、



ア ミ ン。

【 挿句讚頌 第6調 】

誦經) ^{きゅうせいしゅ} ハリス ^{しよてんし} トス 救 ^{てん} 世 ^{おい} 主 ^{なんぢ} よ、諸 ^{ふくかつ} 天 ^{うた} 使 ^{われら} は天 ^ち に於 ^{おい} て 爾 ^{いさぎよ} の復 ^{いさぎよ} 活 ^{いさぎよ} を歌 ^{いさぎよ} う。我 ^{いさぎよ} 等 ^{いさぎよ} にも地 ^{いさぎよ} に於 ^{いさぎよ} て 潔 ^{いさぎよ}

^{こころ もつ なんぢ} き ^{さんえい} 心 ^{さんえい} を以 ^た て 爾 ^{たま} を讚 ^{たま} 榮 ^{たま} するに堪 ^{たま} えさせ ^{たま} 給 ^{たま} え。

句 主は王たり、彼は威厳を衣たり。

讃頌 爾は全能の神たるに因りて、銅の門を破り、地獄の柱を折きて、陥りたる人の族を復活せしめ給えり。故に我等も同心に呼ぶ、死より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

句 故に世界は堅固にして動かざらん。

讃頌 ハリストスは我等の古の朽壤を改めんと欲して、十字架に釘せられ、墓に置かれたり。攜香女は涙と共に彼を尋ねて、泣きて曰えり、哀しい哉衆人の救世主よ、如何に爾は墓に居るを甘じたる、居るを甘じて如何に盗まれたる、如何に移されたる、何の處か爾の生命を施す肉體を匿したる、然れども主宰よ、爾が約せし如く、我等に現れて、我等の涕泣を慰め給え。斯く泣ける時天使彼等に呼べり、涙を止めて使徒に告げよ、主は復活して、世界に潔淨と大なる憐れとを賜えり。

句 主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

讃頌 ハリストスよ、爾は欲せし如く十字架に釘せられ、爾の葬にて死を虜にし、神として三日目に光榮を以て復活して、世界に終なき生命と大なる憐れとを賜えり。光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、アミン。

生神女讃詞 至淨なる者よ、私の造成者及び贖罪者ハリストス主は、我を衣て、爾の胎より出でて、アダムを初の詛より解き給えり。故に無玷の者よ、我等爾、實に神の母及び童貞女たる者に黙さずして天使の如くに呼ぶ、慶べ、女宰、我等の靈の轉達、帡幪、及び拯救よ、慶べ。

奉神者シメオンの祝文 主宰よ、今爾の言に循いて、爾の僕を釈し、安然として逝かしむ。蓋我が目は爾の救を見たり。爾が萬民の前に備えし者なり、是れ異邦人を照すの光、及び爾の民イズライリの榮なり。

聖三祝文 聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐れめよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐れめよ。

せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に。アミン。

しせいさんしゃ われら あわれ しゅ われら つみ いさぎよ しゅさい われら あやまち ゆる
至聖三者よ、我等を憐め。主よ、我等の罪を潔くせよ。主宰よ、我等の愆を赦

せ。せい もの のぞ われら やまい いや たま ことごと なんぢ な よ
せ。聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給え。悉く爾の名に因る。

しゅ あわれ しゅ あわれ しゅ あわれ
主、憐めよ。主、憐めよ。主、憐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に。アミン。

てん いま われら ちち ねがわく なんぢ な せい なんぢ くに きた なんぢ むね てん
天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の国は來り、爾の旨は天

におこな ごと ち おこな わ にちよう かに こんにちわれら あた たま われら
に行わるるが如く、地にも行われん。我が日用の糧を今日我等に與え給え。我等に

おいめ もの われらゆる ごと われら おいめ ゆる たま われら いざない みちび なおわれら
債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等

きょうあく すく たま
を凶惡より救い給え。

司祭) けだしくに けんとう こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ
蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に。



【 主日の發放讃詞 第6調 】



てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、
天使軍 爾墓 現

ばんぺいしせしもののごとし、マリアはか
番兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね
立 爾 潔 體 尋

たあり。なんぢはぢごくにいざなわれず
爾 地獄 誘

して、ぢごくをとりにし、いのちをた賜
 地獄 虜 生 命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。
 者 處 女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは
 死 復 活 主 光 榮

なんぢにきいす。
 爾 歸

【 生神女讃詞 第6調 】

こうえいはちちとことせいしんにきいす、
 光 榮 父 子 聖 神 歸 い す、

いまもいつもよよにアミン。
 今 何 時 世 世 に ア ミ ン。

なんぢはおんちようをこうむれるものをおのれのは
 爾 恩 寵 蒙 者 己 母

はとなづけ、じゆうののぞみをもって
 名 自 由 の 望 以

くるしみのためにきたり、アダムをたづねん
 苦 爲 來 り、 ア ダ ム を た づ ね ん

とほつして、じゆうじかのうえにかがやき
 欲 十 字 架 の 上 輝

て、てんしらにいえり、われとともによろ
 天 使 等 謂 り、 わ れ と と も に よ ろ

こべ、けだしうしなわれしドラクマはえられた
蓋 失 金 銭 獲

りと。ちえをもってばんじをおさめしわれら
智 慧 以 萬 事 治 我 等

のかみよ、こうえいはなんぢにきい
神 光 榮 爾 歸

す。

司祭) ^{かみわれら たのみ} ハリストス神我等の ^{こうえい なんぢ き} 侍よ、^{こうえい なんぢ き} 光榮は爾に歸す、^{こうえい なんぢ き} 光榮は爾に歸す、

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつもよよに、アミン。しゅあわれめ、しゅ
何 時 世 世 主 憐 主

あわれめ、しゅあわれめよ、ふくをくだ
憐 主 憐 福 降

せ。

司祭) ^{し ふくかつ} 死より復活せし^{われら まこと かみ} ハリストス我等の ^{そのしじょう} 眞の神は、^{はは こうえい} 其至浄なる母、^{さんび せい} 光榮にして讚美たる聖

^{しと こくしょうほうしん} 使徒、^{わがしよしんぶ} 克肖捧神なる我諸神父、^{およ しよせいじん きとう より われら あわれ たま} (某)及び諸聖人の祈禱に因て我等を憐み給

^{ぜん} わん。^{ひと あい} 善にして人を愛する^{しゅ} 主なればなり、

アミン。

【 萬壽詞 】

か み よ 、 わ が く に の て ん の お う 、 お よ び
 神 我 國 天 皇 及

く に を つ か さ ど る も の 、 わ れ ら の ふ し ゆ
 國 司 者 我 等 府 主

き よ う セ ラ フィ ム 、 お よ び こ と ご と く の せ い き よ う
 教 及 悉 正 教

の ハ リ ス テ ィ ア ニ ン ら を 、 い く と せ に も ま も り
 等 幾 歳 護

た ま え 。
 給